

防災フェスタ 災害は住民全体で乗り切ろう！！

園田ダイヤハイツ
築37年・111戸

～災害は忘れたころにやってくる！ 日頃の訓練が大切～



毛布で担架：運搬訓練



土のう作り（10kgに挑戦）



水消火器火消し訓練



隔壁（ケイカル板）破り



AED操作説明：テモ人形を使って



非常食（アルファ米）炊き出し・試食

園田ダイヤハイツ

阪急園田駅バス5分。蛙の歌が聞こえてくるマンション。

築年数： 37年

場所：尼崎市田能

総戸数：111戸

7階建

マンションの特徴

- ・尼崎市の東北端に位置し、東は豊中市、北は伊丹市どちらへも徒歩10分。近くには園田競馬場があり開催日は賑わう
- ・単棟でも4棟（A棟：3F/B棟：5&6F/C棟：7F/D棟：3～7F）で中央には42台の平面駐車場がある。
- ・2012年有志による専門委員会を設立し、管理組合と自治会に“快適な住まいづくり”に向けての提言活動を続けている。
- ・管理組合は8年前から公募制で任期2年に変更、自治会は当初より1年交代で10年に1度の順番制としている。

うまくいったこと・発見したこと

- ・防災フェスタは非常食（アルファ米）の炊き出しに始まり、消防署による消火器操作訓練と人形を使ってのAED操作説明を実施
- ・続いて隔壁（ケイカル板）破り、毛布で担架の搬送訓練を行い、公園では水害に備えての土のう（10kg）作り体験を行った。
- ・数年前に有志で行った試掘井戸を見学し、給水状況のデモでの水質の綺麗なことで参加者は驚いていた。
- ・高齢化したことで、人（人形）や、土（土のう）や、水（井戸水）の重くなってきている事を痛感した人が多くいた。

きっかけは？

- ・阪神・淡路大震災では震源地よりかなり離れていることもあってか建物、設備等には大きな被害に遭わず、負傷者も出ることがなかった
- ・その後、各家庭では飲料水や食品の備蓄を行っていたが20年以上経過するとすっかり忘れてしまっていた。
- ・“災害は忘れたころにやってくる”（寺田寅彦）昨年こちらにやってきた地震と台風、住民に「防災意識」目覚めさせた。
- ・台風時の停電では近隣住民に電気（携帯充電用が主）を提供でき喜んでもらえた。

今後は・・・

- ・これからますます高齢化は加速していくことは間違いない。
- ・今まで取り組んできたマンションの防犯/防災対策の一環である、構内バリアフリー化（段差1cm以下）、夜間照明の適正化（防犯カメラ+センサーライト）、車椅子常設を行ってきた。
- ・今後は非常用発電機の設置による停電時の対応強化、AEDの常設による非常時救急に役立てたいと思っている。